

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：生麦ポケット保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：丸尾 康子	定員（利用人数）：60名（54名）
所在地：〒230-0052 横浜市鶴見区生麦3-7-11	
TEL：045-502-9120	ホームページ： https://www.namamugipocket.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2020年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：有限会社 KBC	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 4名
専門職員	保育士 14名 栄養士 1名
	調理師 1名 看護師 1名
	保育補助 1名 調理補助 2名
	事務 1名
施設・設備の概要	保育室 6 トイレ 4
	調理室 1 事務室 1
	園庭 なし（屋上あり）

③理念・基本方針

【保育理念】

・保育者、園職員、地域の方々ほか、皆で見守る優しい環境作りを大切にし、まるでポケットの中のぬくもり溢れる温かさと安心感を提供できるよう心掛け、地域に根付いた子育て支援をめざしていく

【保育方針】

・子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら、認め、褒めて考えて、共に成長を喜ぶ

【保育目標】

①ひとりひとりの個性を尊重し、その個別の状況に応じたきめ細かな、子ども支援と家庭支援

②心と体の健康を大切にし、情緒豊かな人間関係の構築

③「良く食べ、良く遊び、良く眠る」 基本的な生活習慣の確立

④施設・事業所の特徴的な取組

園は最寄りの駅から徒歩1分程度と駅にも近い環境です。そのため、子どもたちの大好きな電車をいつでも見に行くことが出来、とても喜ばれています。近隣には公園や

小学校、中学校、コミュニティセンターも近くにあります。子どもたちで十分に歩いて行ける所に川があり川沿いの遊歩道を散歩コースに利用したり、広場もあるので十分に運動もでき、自然環境にも恵まれています。

取り組みとしては、

・屋外活動の充実・・・天気の良い日はお散歩へ出かけます。状況に応じて散歩先を決め、子どものリクエストで散歩先を決めることもあります。行き帰りの交通ルール、マナー、約束事も学んでいます。行き帰りには地域の方々への挨拶もしています。お散歩には行けない子どもや乳児クラスの子どものも日中は屋上に出て、日向ぼっこをするなど外気浴を行っています。

・ダンス教室の実施・・・外部講師（パピヤ式ダンス）が行うプログラムです。色別マットを使用し全身を動かして行う、体操やダンスを行っています。

・食育活動への取り組み・・・献立を子どもたちに伝え、その日の食材に関して5大栄養素や働きについて話をしたり、季節の食材を取り入れたり、園の屋上に鉢植えにて野菜を栽培して、観察、収穫、を体験しています。

・外部講師による学習・・・「ことば、もじ、かず、アルファベット」などのプログラムを行っています。

・子どもによる選択・・・子ども自身のやりたい気持ちを尊重して実施しています。テーブルやマットの環境設定を行い、活動内容や場所を個人で決められるようにしています。

・縦割り保育・・・朝と夕に2歳児～5歳児が集まり、みんなでの挨拶や歌を歌い、小さな子のお手本になったり、大きな子の真似をするなど、関わりを持つ時間を作り無理なくかかわれる様にしています。

子どもたち1人1人の個性に寄り添いながら認め褒めて考えて共に成長を喜ぶ。ポケットの名前の通り、私たちはまるでポケットの中にいるような…あたたかな中で保育することを大切にしています。

乳幼児期は思い切り遊ぶことが大切。遊びを通してたくさんのことを学んでいく。

受け止めて・寄り添って・認めて・褒めて・励まして・抱きしめてを大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年3月8日（契約日）～ 令和5年4月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの生活と遊びを豊かにする活動

天気の良い日は積極的に戸外に出て町探検をしながら楽しく歩き、遊びの中で進んで身体を動かしています。室内では全園児、裸足で過ごしています。0、1歳児クラス、4、5歳児クラスはオープンフロアを分けて使用しており、普段からお互いの活動の様子が伝わります。お店屋さんごっこやお化け屋敷といった活動で、年下の子どもを招待するなど異年齢での関わりを持っています。公園遊びでは季節により、虫探しや木の実拾いなども楽しんでいます。地区センターの外にある広場を予約して利用したり、散歩時に交番や消防署の職員と挨拶を交わすなど様々な体験をしています。

2)子ども中心の保育

入園時の保護者の提出書類や入園時個別面談からの情報、入園後の子どもと職員の間

わり、子どもを観察することなどからも子どもを把握し、十分に尊重しています。保育の方針や目標に基づいて、各クラスで成長や発達に合った計画を作成しています。また、そのクラス独自でやりたいこと、子どもの様子から引き続き行うことも取り入れ、子どものやりたい気持ちなどを汲み取って保育をしています。個別の指導計画を全園児作成し、丁寧に取り組んで成長の経過を追っています。

3) 理念に基づく保育の実践

職員は、保育理念である「まるでポケットの中のぬくもり・・・」の温かさと安心感を得ています。園長のリーダーシップの下、子どもを尊重することや共に成長を喜べるよう、各会議、研修などで定期的に学び、職員自らの業務の意識付けや実践につながるように促し、一人ひとりに寄り添う保育を大切にしています。日々の保育の中では園長、主任が積極的に現場を見るほか、職員は子どもの表情、言動、関わり方等から、子どもの満足や納得しているかの把握に努めています。職員間で連携を密にし、子どもと個別に対応しているときは、他の職員が全体を見て、全員による子どもへの理解につなげています。

4) 中長期計画策定

理念や方針の実現に向け、法人の代表でもある園長のビジョンを明確にし、文書化が望まれます。園が考える目標を中長期計画で表明し、職員等の共有・協力が得られることが期待されます。

5) 園長自らの役割と責任の明確化

園長自らの園の経営・管理に関する取組や業務内容、園長不在時の権限委任について明確にすることが望まれます。園長は、法人代表及び園長として責任をもってリーダーシップを発揮しています。役割と責任を明らかにして園全体で共有することが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審し、全職員で自己評価に取り組んだことは、職員の考え方の違いを含め、共有できていることや強み、弱みなどを把握するために、とても良い機会となりました。また自己評価を行った事で、職員の仕事への取り組みに前向きな姿勢が芽生えました。

評価していただいた項目については今後さらに推進していくとともに、改善を必要とされる項目については保育の質の向上に努め、職員一丸となってより良い施設を目指して努力していきたいと考えています。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり